

教育相談の窓から



先日、ある新聞に2022年に起きた女子中学生のいじめ事案についての記事が載っていました。

担任に相談したら、いじめがなお、一層ひどくなり、自殺まで考えた女子生徒の保護者が見かねて、学区外の中学校に転校させました。

転校先の中学校は、多様性を重んじ、人権意識を育てる教育方針で、女子生徒はクラスメイトからも、快く受け入れられている実感を持ち、友人もでき、担任からも手厚いケアを受けながら、楽しく通うことができたとのことで、学校によってこんなにも違うものかと思ったそうです。卒業を間近に控え、1年余しか在校できなかつたことを残念に思ったと書かれていました。

それでも、転居したわけではないので、休日等に街中で前籍校の生徒に会うと、「まだ生きてたのかよ。キモイ、死ね」などの暴言を吐かれ、いじめは一つも解決していないと思ったそうです。

進学先で、前籍校の生徒に会うのを心配し、遠く離れた市外への高校を選びましたが、街中でのいじめは続くと思われ、おびえた毎日を過ごすことに不安を抱えたままでは、本当に解決したとは言えないと思い、女子生徒は校長に思いをつづった手紙を送りました。しかし学校からは、一切反応がなく、救われない思いを抱えたままでのことでした。

この相談室でもいじめの相談はいくつかあり、その中の何人かに転校を勧め、転校先の学校の良い対応で、救われていると報告していただいたこともいくつかあります。しかし、まずは教職員がしっかりと人権意識を持ち、真剣に人権教育を進めていじめが起きた学校こそが変わらなければ本当の解決はできないと、痛感させられた記事でした。

